

大阪大学卓球部悲願の1部リーグ昇格（1986年）

森田哲司

1988年 大阪大学卒業

皆さん、こんにちは。大阪大学卓球部 OB の森田（1988年卒）と申します。第15回の狩野先輩の寄稿に阪大卓球部の関西学生リーグでの1部リーグ昇格の話が出ており、当時の関係者として寄稿させていただきます。

私は現在も出身県である奈良県で卓球を続けています。数年前に神戸大学が1部昇格され、その時、会社の後輩の神戸大学卓球部 OB から国公立大学で1部に上がるのはいつ以来ですか？と聞かれ、

「1986年の阪大以来！」と自慢げに答えました。今回の寄稿にあたり、当時の昇格を特集した部誌を見直し、記憶を呼び起こしてご紹介したいと思います。

阪大卓球部は人数も多く、インターハイに出場したような強豪選手が出現することがあり、狩野先輩の時代もインカレでベスト16に進出するなど、国公立大学の間では強豪であったと思います。とは言え、当時6部までであった関西学生リーグでは2部の上位にはいくものの、1部には進出したことはありませんでした。そんな時代の1984年に私は阪大卓球部に入部しました。高校は奈良の公立高校（狩野先輩のダブルスパートナーの加島さんの後輩）で、最高位では奈良でベスト4に入ったこともあり、阪大に入ってすぐにレギュラーになって、活躍できると思っていました。ところが入部するとすぐにその考えは甘かったことを思い知ります。二つ上には大阪でインターハイに出場した廣田さん、全中で活躍された川瀬さん（1984年にはお二人のダブルスは全国公で優勝、川瀬さんはシングルス優勝、）がおられ、他にも強い先輩がいっぱいいました。同期には同じ日に入部した兵庫県のインターハイ選手の安田君、大阪でベスト16に入った藁田君がいました。さらにゴールデンウィーク明けにスーパースターの阿部君が入部してきました。阿部君は群馬県出身で普通の公立高校でありながら、インターハイでベスト16（関東大会はベスト8）まで進出していました。戦型は自分と同じペンドラ、ところが自分とは違いフォームは美しく、全く力むことなく理想的でした。ああ、天才ってこういう奴のことを言うのか、と思いました。そこからの4年間は彼を中心に阪大卓球部は活躍していきます。

5月にあった関西学生新人戦では第2シードの2年生主体の京産大 A チームを1年生4人の我々阪大 D チームが撃破し、ベスト8に進出しました。中心はやはり阿部君で、それ以後、私学からも一目置かれるようになりました。よし、これだけのメンバーが揃っているなら自分らの時代で1部に上がろう、個人的には阿部君に勝てるようになろう、こんなことを思っていました。

秋のリーグ戦では転落していた3部で優勝し、2部復帰、我々が2年（1985年）の春リーグは廣田さん、川瀬さん、阿部君、安田君が中心で（森田は5番手 or 6番手）、阪大卓球部史上最強だと言われていました。このメンバーなら1部も夢ではないという声も出る中、迎えた春リーグ、オーダーが裏目に出たり、練習し過ぎで阿部君らが体調不良になるなど、結果、2部の最下位に沈みました。

そのリーグ戦で廣田さんと川瀬さんは引退、私と藁田君がレギュラーになり、1期下に兵庫県でチャンピオンになったこともあるカットマンの内藤君が入部してきました。新たにチームを編成し、1期上の出口さんがキャプテンとしてチームをまとめ、出口さんの学年のメンバーも大いにチームを盛り上げてくれました。

迎えた1986年の春リーグ、甲南大学、関西学院大学、関西大学、大経法大、天理大と私学の強豪を次々と撃破し、2部優勝を果たしました。1部昇格に残るは入替戦、相手は立命館大学でした。入替戦当日はOBの皆さんも多く駆けつけてくれ、阿部君がトップでエース対決に勝ち（この試合は感動しました）、その後の試合もそれぞれ大接戦の中、3-2とリードした状態で私に回ってきました。相手はカットマン、セットオールになり、20-15でリードしていたものの、そこから5本連取されジュースに。大応援団をハラハラさせる中、最後はネットインで勝利が決まりました。ベンチからみんなが飛び上がってこっちに向かってきたシーンは今も脳裏に焼き付いています。

その後1部リーグで2シーズン過ごしましたが、チームは10戦全敗でした。その中で阿部君は互角以上の戦いをしていましたが、私は1勝するのが精いっぱいでした。自分が勝って歓喜の1部昇格を決めた1年後には、入替戦で最後に自分が負けて悲哀の1部陥落が決まりました。そのリーグを最後に我々の学年は引退しました。今となっては勝った歓喜も負けた悲哀もそれぞれいい思い出になっています。

全国公に関して阿部君は3年時（1986年）にはシングルスで優勝しました。団体戦では3年間で2位、3位、2位でした。3年時には連覇していた筑波大学を破った鹿屋体育大学を倒しての決勝進出でしたが、広島大学に敗れてしまいました。全国公の優勝校記録に阪大の名前を残せなかったのは残念でした。

阿部君とは結局、学内リーグで1回勝ったのみ、超えることはできませんでした。超えるどころか姿も見えなかったかもしれません。その後も私は卓球を続けて52歳の時に奈良県の50代の代表として全日本マスターズに出場しベスト16に入りました。阿部君がインターハイでベスト16に入ったのを思い出して、ちょっとは並ぶことはできたかな、と感慨深かったです。

この年齢になって振り返ると、「1部に上がろうと思っていたけど、1部で勝とうとは思っていなかったな」とか「阿部君は天才で超えられない、と心の底では思っていたな」と考えます。これからも卓球を続ける中で、楽しみながらも、限界を作らず、もっと上を目指したいと思っています。

最後になりますが、長内理事長をはじめとする国公立大学卓球連盟の皆様とその活動に感謝申し上げて、寄稿文を締めたいと思います。ありがとうございました。

対立命館入替戦スコア	
阿部	21-18
	20-22
	21-13
藁田	21-18
	21-15
内藤	22-20
	13-21
	23-25
阿部・安田	
	15-21
	21-17
	21-12
出口	14-21
	12-21
森田	21-13
	13-21
	23-21
阪大	4-2立命館

- 写真1 狩野先輩が主催で開催いただいた1部昇格記念祝勝会
- 写真2 広島で開催された全国公後の宮島の海水浴場にて
- 写真3 同期メンバー（10名）との卒業旅行にて